

第37回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会報告

大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授 河田 了

第37回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会総会ならびに学術講演会を平成31年2月7日(木)～9日(土)に大阪市のホテル阪神にて開催させていただきました。日本耳鼻咽喉科学会の分科会のなかで最も活発な学会の一つである本学会を主催させていただいたことに対して、本学会の理事長をはじめとする役員各位および会員の皆様に心より御礼申し上げます。

さて本学会は日本耳鼻咽喉科学会の分科会のなかで、最も基礎研究を重視した学会です。名称は「免疫・アレルギー」ですが、最近の演題を見ると腫瘍から炎症まで、幅広い基礎研究分野を含んでいます。大学院生を中心とした主に若い世代の先生によって基礎研究が行われていることが多いですから、本学会も若いエネルギーがみなぎっています。「過去」基礎研究に打ち込んできた「年配」の先生も研究に没頭した日々によりタイムスリップできるという特典もあります。

ところで、本邦における基礎研究離れが気になります。初期臨床研修の必須化からさらに今回新しい専門医制度が開始されることになって、基礎研究の開始時期が遅くなるのが危惧されます。加えて、初期臨床研修での大学離れの結果、基礎研究に興味をもつ可能性のある最初の2年間を失っています。そのような状

況の中でも、臨床家における基礎研究の価値や重要性については異論のないものと確信しています。実験手技がますます高度化し、内容も細分化されているなか、臨床家である耳鼻咽喉科医がどのような目的で、どのような立ち位置で基礎研究を推進していくかを考える必要性に迫られていますが、臨床家における基礎研究がなくなることはないし、なくては決してならないと考えます。臨床の少しばかりの疑問から発展する研究は少なくなく、それは臨床家でなければできない事柄であると思います。

本学会では600名近い参加者を得ることができました。特別講演は河本宏先生(京都大学ウイルス・再生医科学研究所)、教育講演は海老澤元宏先生(国立病院機構相模原病院)にお願いしました。またBasic & Clinical Conferenceと称して、それぞれの分野における基礎と臨床のトップランナーの研究者に講演いただいたあと会場の先生も含めてConferenceをするという企画を立てました。2会場での開催でしたが、いずれの会場でも活発な議論が行われました。

最後になりましたが、この度大阪医科大学医師会から学会助成を頂いたことに深謝いたします。

